なんば駅周辺における空間再編推進事業
整備プラン

令和４年７月

大阪市　計画調整局・建設局

はじめに

なんばエリアは、芝居小屋や劇場などをはじめとするにぎわい・エンターテイメントの文化や豊かな食文化などを背景としながら個性あるまちとして発展し、近年は大阪を代表するエリアとして訪日観光客に対する認知度が高まるなど、大阪の都市魅力を考える上で欠かせない、重要なエリアです。

このエリアの一層の活性化を図るため、なんば駅前のあり方について民間が積極的にまちづくりに参加し、地元町会や商店街、周辺企業等で構成される「なんば安全安心にぎわいのまちづくり協議会」が中心となって、駅前広場及びなんさん通りの歩行者空間化に向けた検討が進行してきました。その後、地元・経済界・行政による検討体制として「なんば駅前広場空間利用検討会」が始動し、2016（H28）年の社会実験や2017（H29）年の基本計画策定を経て、現在官民が連携して空間再編の事業に取り組んでいます。

折しも、世界の主要都市では、都市魅力を高めるため道路空間を活用して人中心の空間に生まれ変わらせる取組みが進められており、国内においても「居心地が良く歩きたくなる」まちなかづくりとして、ウォーカブルなまちなかの形成を図ることとして、法制度の整備が進められるなど、公共空間において人々の交流・滞在を促進し、にぎわいを生み出す流れが、世界的な潮流となっているところです。 2025大阪・関西万博において大阪・関西の魅力を世界に発信し、ポストコロナ期の都市間競争に打ち勝つため、本市としても速やかに都市空間の魅力向上に取り組む必要があります。

なんば駅前における空間再編推進事業は、2018(H30)年度より本市の事業として設計に着手し、地元との合意形成や関係機関との協議を経て、より歩行者にとって安全で安心な空間となるような整備計画をめざしてきました。

2016（H28）年の社会実験時点では、駅前広場に南向き一方通行の車両動線が一部残っていましたが、その後、御堂筋からの車両を進入禁止として駅前広場に歩行者が自由に行き交いできる空間を生み出すよう計画を更新しました。

また、車両の通行形態が変わること、特に周辺の商店街などのにぎわいと密接に関係のある荷捌き活動や、タクシー・バス等の交通機能の再編による影響を検証するため、2021（R3）年11月に社会実験を実施し、結果の検証を経て、本整備プランの策定に至ったものです。

今後は、この整備プランに基づき、人が主役となり、安全で安心に、居心地が良い道路空間を形成する取組みを推進し、隣接する大阪のシンボルストリートである御堂筋などエリア周辺とも連携しながら、新たな大阪のシンボルとなる空間の創出を推進していきたいと考えています。

整備プランの構成

pp.3-8 **1．なんば駅周辺の現況と動向**

（1）地区の位置付け　（2）動向　（3）これまでの経過

pp.9-10 **2．「なんば駅周辺道路空間の再編に係る基本計画」における コンセプト（めざすべき方向性）**

（1）新たなシンボル空間の創出

（2）世界をひきつける観光拠点づくり

pp.11-17 **3．基本方針**

（1）道路空間再編の方針

方針①：利用実態に合わせて、空間を再配分
方針②：歩行者空間の拡充による安全性の確保
方針③：駅前広場を中心とした回遊ネットワークの形成

（2）シンボル空間創出の方針

方針①：多様な活動の舞台となる空間の創出
方針②：日常・非日常の風景の実現
方針③：夜間景観の形成

pp.18-26 **4．整備計画**

（1）全体計画
①：交通機能の再配置と滞留空間の創出
②：荷捌き機能の確保

（2）区間・エリアごとの整備計画
①：駅前広場
②：なんさん通り(南北)

pp.27-31 **5．持続的な維持管理・運営に向けて**

（1）諸制度の活用　（2）荷捌きなど交通ルールの運用　（3）地域環境保全の取組

p.32 **6．当面の進め方**

（1）整備スケジュール　（2）駅前広場の管理・運営

pp.33-35 **7．今後の検討事項**

（1）道路空間と沿道地域の連携　（2）利活用に関する地域ルール　（3）世界をひきつける観光拠点づくり
（4）防災拠点としての活用　（5）地域連携による回遊性の向上　（6）なんさん通り東西区間の整備

1．なんば駅周辺の現況と動向

（1）地区の位置付け

- なんば駅周辺は、交通アクセスの至便な大阪の南の玄関口であり、関西国際空港に直結する主要な交通拠点です。
- 大阪を代表する商業・観光エリア「ミナミ」を形成しており、大型商業施設や商店街、百貨店、多種多様な飲食・物販店舗などの商業施設に加え、文化・観光関係施設が点在し、国内外から多くの来訪者が訪れています。
- また当エリアでは、難波・湊町地域として都市再生緊急整備地域が指定されており、業務・商業などの多機能複合市街地として、人・情報・文化の交流・結節拠点を形成することを目標としています。
- 大阪府・市では「大阪都市魅力創造戦略2025」を策定し、世界の都市間競争に打ち勝つ都市魅力の創造・発信などに取り組んでおり、なんば駅周辺も「世界第一級の文化・観光拠点の形成・発信」の重点エリアとして、隣接する御堂筋エリアとともに、にぎわいや憩い・交流の創出など、都市魅力の向上や活性化を推進する必要があります。
- 大阪都心では、大阪駅周辺地区で新たな都市機能の集積が進展しています。また、2031年春になにわ筋線が開通予定であり、本エリアにも新駅が開業します。こうした状況下において、本エリアの魅力向上を通して、大阪の業務・商業機能が集積する南北都市軸を一層強化し、引いては大阪全体の発展につなげていくことが求められます。

▲大阪都心南北軸の強化

▲なんば駅周辺

1．なんば駅周辺の現況と動向

（2）動向

①国内における都市魅力の向上に向けた公共空間の利活用の取組の進展

ア）「居心地が良く歩きたくなる」まちなかづくり～ウォーカブルなまちなかの形成～

〇官民で交流・滞在空間の創出に取組み、都市の魅力を向上させ、まちなかににぎわいを創出

- 人口減少や少子高齢化が進み、地域の活力の低下が懸念される中、車道の一部広場化など、ゆとりのある歩行者空間や、歩道と一体になった居心地の良い空間の創出により、人々の交流・滞在が促進され、まちににぎわいが生まれた事例も見られた
- まちなかに多様な人々が集い、交流する「居心地が良く歩きたくなる」空間がまちの魅力向上に有効であるとされ、各種制度が新設（2020[R2]年度、国土交通省）

※出典：2020[R2].12.11第1回ほこみち全国会議　資料より（国土交通省道路局）

イ）歩行者利便増進道路“通称：ほこみち”制度の創設

〇地域を豊かにする歩行者中心の道路空間の構築をめざす

- 歩行者の安全かつ円滑な通行及び利便の増進を図り、快適な生活環境の確保と地域の活力の創造に資する道路を指定（ 2020[R2]年度、国土交通省）

ウ）御堂筋「世界最新モデルとなる、人中心のストリート」

〇御堂筋将来ビジョン(2019[H31]年3月策定)に基づき、道路空間再編の取組みを推進

- 御堂筋を歩行者利便増進道路（全国第1号）として指定（ 2021[R3]年２月、大阪市）

※出典：御堂筋将来ビジョン（2019[H31]年3月、大阪市）

（２）動向

②ポストコロナを見据えた大阪・関西万博2025に向けた取組

- 2020年に端を発した新型コロナ危機が、日常生活や社会経済活動、行動様式や人々の意識など、多方面に影響を及ぼす中で、ニューノーマルな社会への移行が現在進行形で進んでいます。都市活動では、ソーシャル・ディスタンスの確保や、リモートワークや会議・授業等のオンライン化などが浸透しています。
- 都市の過密を避ける傾向と近場の旅行（マイクロツーリズム）の重要性が高まる一方、身近な憩い空間の重要性が再認識されており、公共空間の価値が増し、空間の”質”や役割が一層問われることとなっています。ポストコロナ社会の新たなニーズを充たす空間として、ますます都心部の公共空間のあり方に目が向けられると予想されます。
- また、コロナ危機以前まで隆盛であったインバウンドは一時的に消失し、大阪・ミナミの経済活動も大きな影響を受けました。
- この難局を乗り越え、新たな生活様式やニーズ変容の潮流をとらえつつ、今後のインバウンド需要の回復に向けて反転攻勢を期すため、中長期的な視点で、交流・滞在空間の機能拡充などを図っていく必要があります。
- 大阪では、2025年大阪・関西万博に向けて、国際的に注目が集まるこの機会にPRできるよう、都市魅力のさらなる向上を進めていく段階にあり、なんば駅前広場もその一翼を担うプロジェクトとして推進していく必要があります。

フェーズ１（ウィズコロナ）

■ 感染防止対策を最大限に講じつつ、国内の観光需要喚起等に向けた取組みを推進
■ ウィズコロナに対応した新たな都市魅力の創出、反転攻勢に向けた準備、基礎固め、受入環境整備等を着実に実施

フェーズ２（ポストコロナ）

■ ウィズコロナ期における取組みを土台に、国内に加え、インバウンドも対象とした誘客を促進するなど、2025年に向け取組みを加速度的に推進し、大阪の賑わいを創出

▲大阪都市魅力創造戦略2025より　フェーズに応じた取組み推進の考え方

１．なんば駅周辺の現況と動向

（３）これまでの経過

①なんば安全安心にぎわいのまちづくり協議会（2011[H23]～）

（地元町会・商店街・企業）

2011[H23]年度　大阪市まちづくり推進団体に認定
南海なんば駅前周辺の歩行者優先化に向けた調査
テーマ①交通の影響評価　②歩行者空間化のトレンド
2012[H24]年度　テーマ①パブリック空間の利活用　②防災
先進事例の講演、ワークショップ、視察、勉強会を開催
まちづくり構想（たたき台）とりまとめ

まちづくり構想（たたき台）より
なんば駅前の広場化（イメージ）

②なんば駅前広場空間利用検討会（2015[H27]～）（地元・大阪商工会議所・行政）

2015[H27]年度　なんば駅周辺道路空間の再編に係る基本計画
（中間とりまとめ）　策定
2016[H28]年度　なんば駅周辺道路空間の再編に係る基本計画　策定
⇒官民で共有

なんば駅周辺道路空間の
再編に係る基本計画より
イメージパース

③なんば駅周辺道路空間再編社会実験（2016[H28].11/11～13）

（なんば安全安心にぎわいのまちづくり協議会・大阪商工会議所・大阪府・大阪市で構成する実行委員会）

日本人、外国人ともに、
約９割の方が歩行者空間化を「とてもよい・よい」と評価。

総　計：90.0%
日本人：90.2%
外国人：89.1%

2018（H30）年度から
大阪市により予算化し事業推進

1．なんば駅周辺の現況と動向

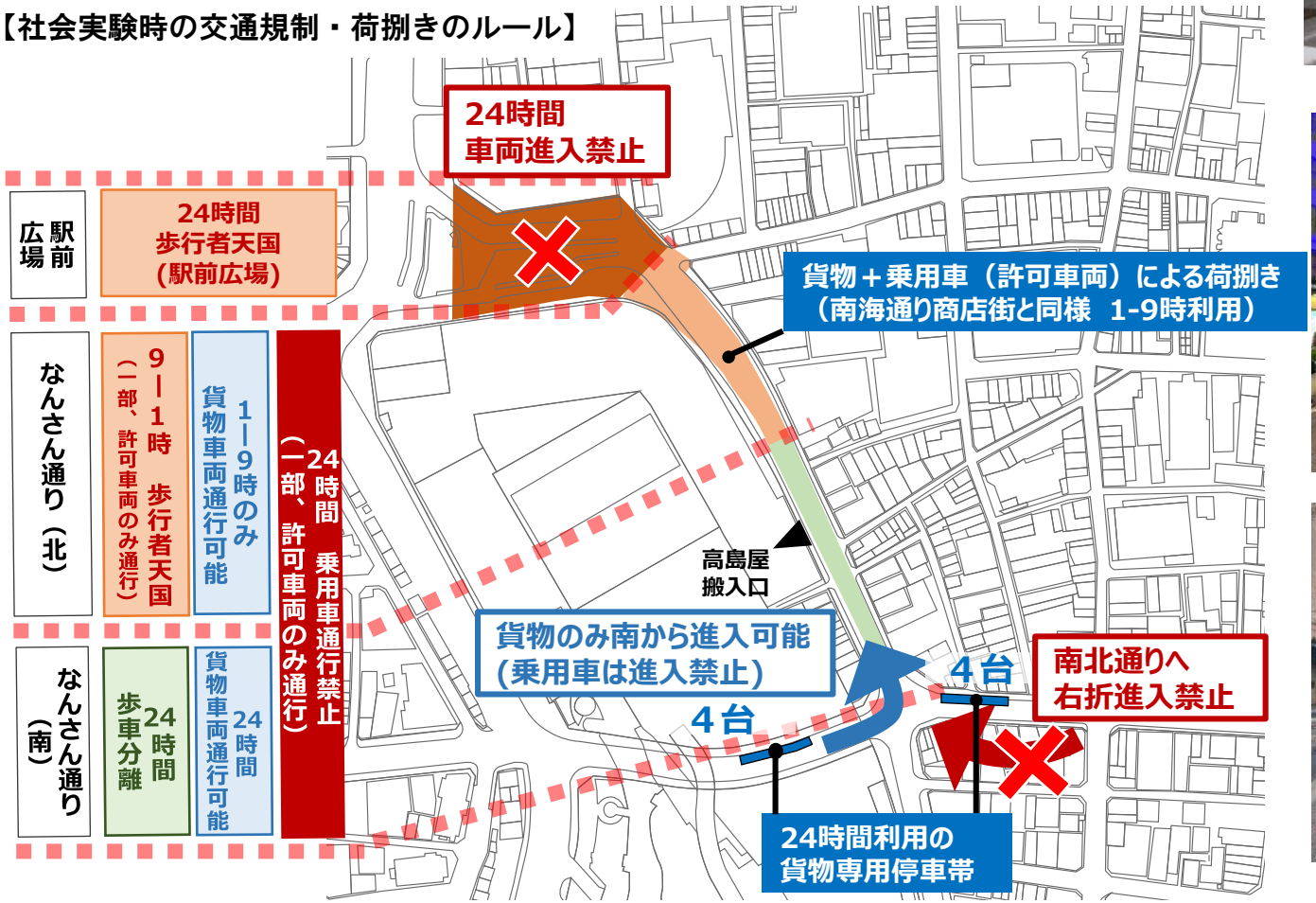
（3）これまでの経過

④社会実験（2021[R3].11.23～12.2）

（道路空間再編：大阪市、利活用：なんば広場マネジメント法人設立準備委員会）

- 空間再編後の道路線形を具現化し、交通荷捌きの運用や安全性、歩行者空間の利活用を検証する社会実験を実施
- タクシー・バス等の交通機能を再配置するとともに、交通規制・荷捌きルールを変更し、なんさん通り周辺の荷捌きスペースと搬入経路・搬入時間を10日間運用

【社会実験時の交通規制・荷捌きのルール】



【社会実験時様子】

通行許可証の確認状況
（難波中２交差点）

夜間の様子・可動式座具

休日の様子

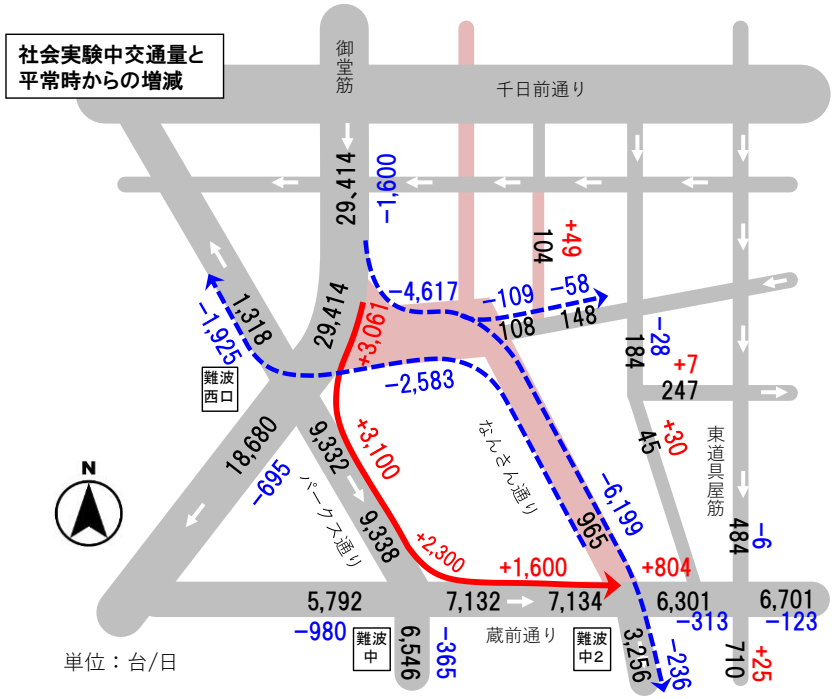
1．なんば駅周辺の現況と動向

（3）これまでの経過

⑤社会実験（2021[R3].11.23～12.2）　結果概要

交通影響の検証

❖ **交通処理能力**
なんさん通りの通行車両が、パークス通り・蔵前通りに転換し各交差点の交通量は増加したが、交差点交通処理能力に問題はなかった



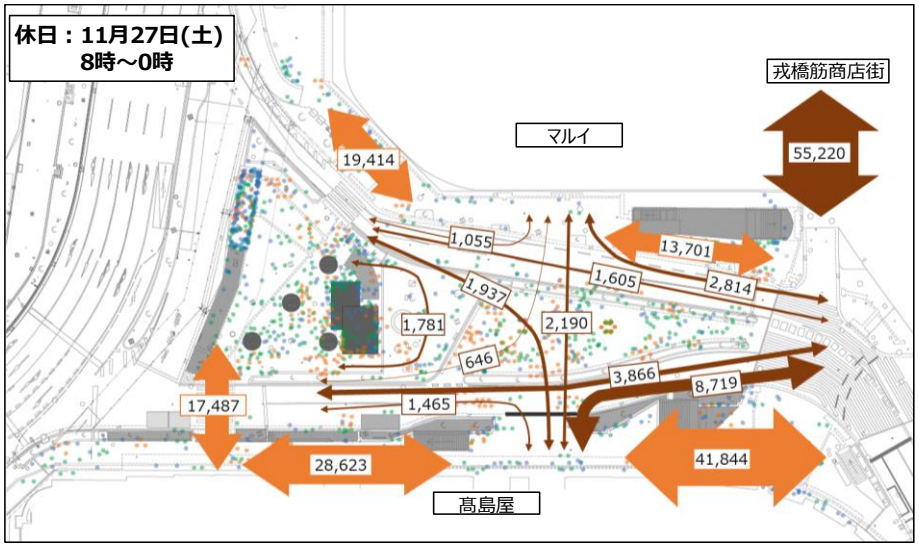
【調査日】実験中：令和3年12月1日(水)
実験前：令和2年2月19日(水)　※商店街内は令和3年10月5日(火)

参考：
大阪市HP　なんば駅周辺における道路空間再編のための社会実験について
https://www.city.osaka.lg.jp/kensetsu/page/0000559008.html

利活用（滞在快適性向上）

❖ **本計画への利用者の意見（利用者アンケートより）**
「とてもよい」「よい」が合わせて９割

❖ **滞留行動調査・人流計測調査等**
歩行者動線と滞留空間について検証



【歩行者人数】8時~0時の歩行者人数（人／16h）
センサーによる人流計測
調査員の目視による歩行者人数調査

【滞留位置】 8時30分~23時30分の毎時30分時点の滞留位置(16回分)をプロットし重ね合わせた図
●1人での滞留　●2人での滞留　●3人以上での滞留

参考：
なんば広場改造計画 Webサイト　滞在快適性向上社会実験の結果
http://www.namba-hiroba.jp/pdf/report2021.pdf